“舞踏？”ワークショップ「舞踏とは何か？」

向 雲太郎（舞踏家・振付家）
司会：河本英夫（東洋大学文学部教授）

向　　大先輩の室伏鴻っていう人が、ソロで『quicksilver』という作品をやってるんですけど。quicksilver、水銀です。からだを銀色に塗って、水銀がゆらゆらうごく。こんなふうに・・・、こう、上からかぶさってくる。これ沸騰してたのかな、今、分かった。

コピーとかトレースっていったりもしますが、自分のからだをメディウムにして室伏鴻の霊を降ろすじゃないけど、そういうことをやったことあるんです。映像を 1000 回ぐらい見て、一挙手一投足、右へここをこうやってうごいているのを全部トレース、まねしてやったことがあります。

昨日、河本先生が「からだが透明でなければいけない」と言っていましたが、ガラスみたいなことなのか。向こうが見える、透明な存在でなければいけないということなのかなとか、そういう具体的、からだの物理的なことを、先生は言ってたのではないのだろうかな。とか思いつつ、からだに落とし込んでいく。そして透明って考えたら、水だな。と。室伏さんは水銀ですが、俺は今度ソロで、『water』っていうのをやろうと思い至りました。

河本　いい。それ素晴らしい。

向　　コンセプト河本英夫って、チラシに書いていいですか。

河本　いいですよ。

向　　次回のワークショップは、長くやります。毎日 3 時間ぐらい、5 日間ぐらいやります。今日の、“寝る立つ” ところを、もうすこしからだを使ってやります。最近、対話っていうのか、話しながらやるのがすごく楽しくて。しかしみんな、意外と無口な人が多いから（笑）。そんなことないか。これはどういうことなのかなってみんなで考えて、俺自身も発見があるんです。今日は本当に、驚きを持ったワークショップでした。明日は、松本でワークショップなんです。そこは、演劇学校で演劇を目指してる人で、みなさん役者なんだけども。今日とメンツが違うと全然違うんだよね展開が。皆さんは、哲学科？

河本　東洋思想文化学科も入ってますね。

向　　東洋思想か。だから逆に今日は、もっとアホなことをやりました。頭を空っぽにして、頭を使わず、アホになった。逆に明日は、ちょっと哲学的なことをやったりとかしてね。

河本　それでは、質問を受け付けます。

A－　さきほど、コピーって言われたんですけど。コピーすることで何か変わるもの、発見がありますか？

向　　自分でやらないうごきとかがいっぱいあるんで、それはやっぱり面白いというか、勉強になります。舞踏だけが真似しちゃいけないみたいな思い込みがある。他の芸術分野だと最初、真似から入ります。音楽だったら譜面があって、それの真似から入って、耳コピとかもあるけども。絵だったら模写してっていうようにやるのに、舞踏だけがそれがないんでちょっといい作業。そういうワークショップも今度やってみたい。10 分の YouTube みんなに送っといて、これをコピーして来いみたいな。まずそこから入る。

河本　それ面白いな。

向　　やってみます。

河本　それ、ぜひやってみたいな。不思議なことなんだけど、同じ材料を使ってみんながコピーするでしょ？　全然違うコピーになっちゃうんですよ。これ、身体の不思議なところで、本

当に身体っていうのは、いつも何か戻っていく、戻っていくことを繰り返して出て行く、ここのところが不思議なんだけど。

そういうワークショップに参加すると、3 日ぐらいやると、全然違うものになって帰ってくるという感じだから。

B－　表現するとき、踊ったりするときに気を付けてることはありますか？

向　嘘がないようにするってことかな。からだ、うごきに嘘があるとか、気持ちに嘘があるとかっていうのは嫌だから。嘘がないように、今日も、嘘がないようにやりました。分からないときは、「次、どうしたらいいかな」みたいな姿を見せつつ、舞台上で泣きたくなったら泣いちゃうとか、おしっこしたくなったらおしっこしちゃうとか（笑）。それでいいと思うんです。舞台上っていうのは、ほぼやっちゃいけないことがないから。昔、わざと死んだりとか、自殺を見せるみたいなことをやってる人がいたけども、さすがにそれはよくない。よくないっていうか、何だろう。やっぱり、さっき言ってた、性器は見せちゃいけないみたいな。そこのライン、何か見えないラインみたいなのがあるんだと思うのですけど。見せるけどね、舞台上でもちろん。俺は見せないけど、見せるのが大好きな人がいたりとかするから、そういう人は、それでいいんじゃないですかね。俺が演出だったら、「いいですね」とか言いながら（笑）。

河本　ありがとう。でも、嘘にならないってことはとても難しくて。ちょっとでも自分のほうからかっこつけると、余分な形になっちゃうんです。今日のトレーニングの中で、体を感じるときに目を閉じてイメージを使うというのと、イメージだけで引っ張りすぎないように目を開けていなければいけないというのがありました。目を開けてかつイメージを使うというのは、本当は全然別な働きを使ってるんだけど、うまく組み合わさっていて、今日のは良かった、本当にいいなという。目ってのがくせ者なんですよ。

向　そうですね。目は口ほどにものを言うじゃないですけども、からだをうまくっていうか、殺してても目が生きてたりするんですよ。目がきょろきょろしてるとうるさいから、目も殺せって言う。でもできないから、「じゃあ白目。」となるんです。つぶっちゃいけないから白目。白目やってみよう。できる？　いいじゃん。白目。きれいな白目だ。

白目は結構いろんな局面で使えるから、できると便利だよ。怒られてるときに「はー」って。それ、逆効果か（笑）。白目やると大体ウケるから。特技というか、練習して損はない。できるようになって損はないことの一つではありますよね。

さきほどやった、からだの内側に意識を向けるっていうことでも、近寄って周りを感じるのでもやっぱり目がうるさいというか、どうしても自分の中で目に意識がいってしまう。これが不思議。目をつぶると簡単なんだけども、舞踏は瞑想じゃないから目をつぶらない。最初に言ったように、目は開けてなければいけない。常に覚醒をしてなければいけないのです。つぶると安易なんです。座禅組むときにも、つぶっちゃいけないんです。つぶると別もんになるんだよ。それを海外の人が誤解して瞑想にいっちゃうんだけど。禅と瞑想は似て非なるもの。つぶらない、あれがミソだよね。常に覚醒してる「かーっ」て。俺、真言宗なんです。最近、お経を覚えていろいろと調べたりしてるんですけども。先生詳しいですか、真言宗。

河本　真言宗はあまり詳しくない。

向　真言宗詳しい人いますか。いない？　真言宗の初代って知ってますか？　このあいだ系図を見てたら、空海ってのが 7 代目か 8 代目。禅のほうは初代が釈迦じゃないですか。真言宗は初代が大日如来。見て驚いた。２代目が何とか如来、4 代目ぐらいで何とか法師みたいなのになって、それで空海。びっくり。大日如来のまたの姿が不動明王。このあいだ 300 年ぶりに絵が見られるというので、京都の仁和寺へ見に行ったんです。青い姿で「くわーっ」て、牙生えてて、「ぎゅーっ」てねじれてて。あれのまたの姿が大日如来だって。面白くないですか。

いまお経を覚えてるんですけど。不動明王の真言が「のうまく　さんまんだ　ばざらだんせんだ　まかろしゃだ　そはたや　うん　たらた　かんまん」うんたらた、だよ。わけがわからない。真言だって。哲学科はそういうの勉強しないんですね。仏教のお話しでした。

C－　質問です。最初に水になるとおっしゃっていましたが、何々になるとかってよく舞踏の人って言いますけど、あれは、実際どういうことを目指されているのか。イメージをしているとか、そういうことでいいのか。

向　そこが最初にぶち当たる壁なんです。俺も入門して最初そこを考えた。そこにいけるか、いけないかなんですけど。なるんじゃなくて、“なってる”です。からだは水でできている。それは事実、人間は約 7 割が水なんだって言ったら、もうそれ。それがうごかされる。周りにうごかされる。後から「わーっ」て押されて、「ぐいーっ」となって、「きゅーっ」とか。「水だ」っていうか、「水だから」。なるっていうのもあるんですけども、憑依みたいなこともある。

C－　なってしまったっていう。

向　本物になったら一番いいのかもしれないですけども。だから、本物になるためにどうするかっていうようなことを常に考えてる。大野一雄さんは、最後はボケてた。俺 90 歳のとき舞台を観たんです。共演の観世栄夫さんが、4、5 人引き連れて重々しく群舞になってるとこに、大野さんがいる。後で話を聞いたら、「もう、その頃ボケてて上手とか下手が分からなくて、自分でも何をやってたか分からなかったんだと思います。」っていった話聞いて、俺はそれがめちゃめちゃ面白かった。だからぶっちぎりで目が離せなかったのか「次、何するんだろう？この人」袖行って消えたなと思ったら、花持って出てきて。面白かったな、あれは本当に。そういう存在でありたいなっていう。あれは完全に、ボケを演じるんじゃない、ボケてるっていう。

C－　ボケていても圏はこう・・・。

向　　もう、そんな意識なかったと思う。昔の、若い頃やってた杵柄（きねづか）じゃないですけど、ボケてても圏をまといながら観客の意識を引き寄せる。俺もものすごく目を引きつけられたけど。渋谷のコクーンに見に行ったんですけど、大きな会場で。あれはもう、何もない無の状態みたいなところに多分いたのだと思うんです。作為とか圏とか、そんなの全然考えていない。踊ろうとかも思ってないような存在。90 歳でもずっと第一線にいて、フランスで「ブラボー！」とか言われてるような人がボケてしまって分からない。見た目は大野一雄なのに、自分は大野一雄じゃなくなってるっていうのがやっぱり、なんか面白かったんじゃないかなって今、分析してるとこですけど。

D－　さっき、目っていうか、視界に入る情報みたいな話があったと思うんですけど。目を閉じちゃ駄目っていうことをさっきおっしゃられてたじゃないですか。目を開けた状態で、例えば視界をぼかすと情報入ってこなくなるから、ある意味目をつぶってるみたいな感じじゃないですか。でも、そういうことじゃないんですよね？

向　　近い。見えるのでもなく見ないでもないっていう、あいだ。大日如来とかがどういう状態なのかって俺には計り知れないけども。見てるような見てないような、感じてるような感じてないような、中間のところにずっといらっしゃるんだと思う。たまにでも、「ぐわーっ」て不動明王になったりするから気を付けないとね。焼き殺されるぐらいの、すさまじく恐ろしい存在だから。そういう怖い面と怖くない面っていうか、どっちなんだみたいな。怖いのか怖くないのか、見てるのか見てないのか、みたいな感じですかね。

河本　なかなかその感じが、自分の側から見るわけではないんだけど、目は開いていて、世界につながってて。だから普通、人間って自分の側から能動的に見てるという、あの見方ってのは多分、既に敗北なんですよ。既に負けちゃってるわけ。何に負けちゃってるかっていうと、世界の中にいる自分に負けてるんですよ。うまく世界の中に入り込めてないんですよ。ここが難しくてね。だから、ずっと奥行きのある世界、身体も底なしの奥行きがある世界だから、少しずつこうやってきっかけ作って、感じ取れればというふうに思っています。もうかなり長くなったので、今日はこのへんで。明日、長野に行かれるわけですから、ね。だから一回、ここで打ち切りにしたいと思います。今日は長時間ありがとうございました。

向　　ありがとうございました。どうも。

一同　ありがとうございました